

# 札幌市市民活動サポートセンター 事業運営協議会

平成18年11月27日(月)

札幌エルプラザ 2階 会議室1・2

## 1. 開 会

事務局（志賀） 皆さん、こんばんは。

7時になりましたので、早速、市民活動サポートセンター事業運営協議会を始めさせていただきます。

本日、西井委員から、お仕事の関係で急遽出られなくなったという連絡をいただいております。

本日は、お忙しい中、また寒い中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

## 2. 財団法人札幌市青少年女性活動協会常務理事あいさつ

事務局（志賀） まず、運営協議会の開催に当たりまして、市民活動サポートセンターの指定管理者として管理運営をしております財団法人札幌市青少年女性活動協会の橋本常務理事より、ごあいさつを申し上げます。

橋本常務 皆さん、こんばんは。

きょうは、皆さん方、大変お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

前回は9月にございましたけれども、いろいろご意見をいただきました。その中では、今までの官直営から脱却した取り組みも大胆にやってほしいというご意見もいただいたところでございます。職員一同、試行錯誤といえますか、いろいろ迷いの部分もありますけれども、現在、懸命に取り組んでいるところでございます。後ほど、事業の進捗状況等を資料でご説明申し上げますけれども、一層、市民活動サポートセンターを市民の皆さんにたくさん利用してもらうための促進策についても、前回に引き続きまして、いろいろご意見を賜りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいいたします。

## 3. 議 事

事務局（志賀） それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。

本日は、これまで行ってまいりました事業、また利用状況をご報告の後、検討議題の中にありますとおり、市民活動の参加や促進へのきっかけづくりということで議事を進めていきたいと思っております。お話しただける時間をなるべく多くということで、報告の方は写真などを見ながら進めさせていただきたいと思っております。

資料ですが、次第が一番上についているものを1冊お送りしております。また、本日の机の上に「みんなのしみサポ」を置かせていただきました。これは、本日印刷が上がってきたばかりの最新版でございます。

資料等をお持ちでない方はいらっしゃいませんか。

また、前回の会議に引き続きまして、この会議の状況については、市民活動サポートセンターのホームページの方で議事録を公開させていただいております。皆さんの前にもマイク等をご用意させていただいておりますが、ご協力のほどをよろしくお願ひしたいと思っております。

それではまず、報告事項を進めていきたいと思っております。

前回、事業の概略をご説明させていただいておりますので、これまでに終了している事業、また今後進める予定の事業について、事業を担当しております岡本主査より報告したいと思っております。よろしくお願ひします。

事務局（岡本主査） 事業の説明をさせていただきます。

若干、前回と重複するところがありますが、画像を見ていただきながら、受講生の様子や会場の雰囲気などを見ていただきたいと思っております。

資料の1ページをごらんください。

まず最初は、6月に、さっぽろキャンドルナイトを行いました。詳しい内容については、3ページの一番上と上から2番目のところにあります。

ロビートークを行い、それ以外にパネル展なども行いました。

それから、3ページの一番下ですが、「カルチャーナイト2006」という全市的なイベントにも参加しております。

まずは、「エルプラザの見学ツアー」というバックヤードを見ていただくツアーや、ステージ発表。それから、情報センターの資料を職員それぞれの視点で選定しお客様に実際に本を手にとりただけるような展示の仕方を行いました。

続きまして、4ページ一番上の「コミュニケーション（アップ）講座」というものです。

全3回で行いまして、夜の時間帯に実施いたしました。市民活動なりグループ活動、また地域活動などをされている方に参加いただきました。定員は20名だったのですが、定員を超えた32名の参加でした。大変にぎわった講座になりました。

これは、前回も見ていただいたお写真ですが、坂井さんに講師をしていただいた会計講座の入門編が行われました。

次は、5ページ一番上ですが、「人目を引くチラシを作ろう」というパソコンセミナーを開催いたしました。

それぞれが団体活動をする上で、やはりPRをする上でどんなチラシを配付するとほかのグループより注目度が高くなるのかという視点で、チラシづくりのセミナーを行いました。プロフェッショナルな方は違うソフトを使うようですが、一般的にはワードを使って文書やチラシをつくられる方が結構多いと聞きましたので、ワードを使った講座を行いました。

また、この講座の最終回には、自分たちが活動しているグループのチラシを作成いたしました。参加は14名だったのですが、お隣同士でお互いの活動内容に興味を持って、それぞれの活動の内容についての話が盛んに行われるというようなセミナーになりました。

続きまして、「プロから学ぶ！キャッチコピーの作り方」です。これも広報を視点にしておりますけれども、やはり、チラシや広報を仕掛けるときに、催し物のタイトルだけではなくて、そこにもう工夫したキャッチコピーが載ると、より多くの集客などが見込めるのではないかということから、こういう事業を行いました。

これも、大変人気がありまして、20名の予定だったのですが、27名の方に参加していただきました。実際に、ご参加の方のひらめきをもとにキャッチコピーを発表するという事も行いました。

次は、7ページ一番下をごらんください。

これは、1年間、年度を通して実施するというものですが、「北8条通 アマとホップのフラワーロード事業」です。前回もご紹介いたしましたけれども、エルプラザの南側の正面のところに植栽を行いました。

続きまして、8ページをごらんください。

11月25日の土曜日に終了したばかりのイベントで、「エルプラザ特別企画 秋の芸術体験会」というものを実施いたしました。

これは、エルプラザの南側の正面にある、流政之さんという芸術家の方からいただきました「デアイバチ」というモニュメントにちなみまして、これをいただいた11月に、芸術に関係した秋の芸術体験会を行いました。

見るのもいいけれども、やはり体験してみないとおもしろみが伝わらないということで、オペラをテーマに体験会を行いました。

講師の先生は池上先生という方で、お弟子さんも来ていただいて、ご指導をいただきました。実際に参加された皆さんは、譜面を持ちまして、姿勢を正してオペラの発声をするということをやりました。

もう一つ、今回は人形劇も取り上げてみました。それは、親子で参加できる、そして、舞台上実際に演じてみるというワークショップを行いました。

このプログラムも、人形劇を見て、その後、自分たちでオリジナルの人形をつくり、その人形を使って、舞台上実際に演ずるということを行いました。

これは、舞台の陰のところで、これからお客さんの前で演じるところです。

映画の上映会なども行いました。札幌映画サークルと共同で行いました。

市民作品展は、3階のホワイエというオープンスペースで行ったのですが、大変にぎわいでして、どのコーナーもたくさんの方に立ち寄りいただきました。

男女共同参画センターを使っている方と、市民活動サポートセンターの利用者や登録メンバーの方がいらっしやいました。

実際に、ホワイエのところでも体験をしております、絵手紙の体験などを行いました。

ここまでは、これまで実施した事業のご紹介になります。

この後は、9ページの真ん中ですが、一般の市民向けの講座以外に情報誌も発行しております。本日、皆さんの机の上にお届けしましたけれども、本日刷り上がったばかりの13号が発行されております。

す。この後、3月に14号が発行される予定になっております。あとは、9ページの一冊下のメールマガジンの発行です。これは、月1回程度の割合で実施しているところです。

事務局（志賀） 事業の状況については以上でございます。

それでは、報告事項を先に進めさせていただいて、その後、座長の方にお渡ししまして、質疑応答を進めていきたいと思っております。

資料の11ページから、この春からの利用状況をお示ししております。

11ページは、利用状況総括表ということで、エルプラザは、この春から4施設が一体管理となったのですが、それぞれの利用状況を示しております。この前は9月ですので、8月までだったと思えます。この秋の9月、10月で利用のふえている部分などを出しております。

総体的には、全体で28万4,000人ほどのご利用がある施設です。市民活動サポートセンターの方でいきますと、施設の利用で3万8,700人ほどです。次の12ページに、前年度、17年度の10月までの状況が出ております。去年は視察・見学が800人以上ありましたが、ことしは視察の人数などはちょっと減っております。

それから、12ページの方には、去年の会議コーナーの利用状況が出ております。会議コーナーは、皆さんご存じのとおり、2部屋の1日3区分ということで、30日だと180区分ほどになります。今年度、この中に会議コーナーは出ておりませんが、会議コーナーは10月までに合計で1,049区分ほどのご利用です。17年度は1,012区分ということで、大体80から90%くらいの利用率で、会議コーナーは毎日のご利用いただいている状況です。

今、大と小となっておりますが、小の定員が12名ほど、大の定員が18名ということで、イスはちょっと多目に置いておりますが、その定員の範囲で、午前・午後・夜間という3区分の中でご利用をいただいております。

両方つなげて30人定員で利用することも可能です。

それから、市民活動サポートセンターは、視察もあります。ここに別途出していないのですが、市町村や行政の関係の視察などが多いです。この前、中学校1年生が、総合学習の中で市民活動について取り組んでいるということで、総合学習の一環で私たちの施設へ来ました。ただ、子どもたちは、学校からグループごとそれぞれで来たものですから、グループによってはバスのトラブルに巻き込まれてちょっと遅くなって着いたということもありました。実際に、サポートセンターでどんなことをしているのか、子どもたちが事前に学習の中で考えた質問なども、答えられる範囲で答えております。

また、体験していただくということで、今は学校でもできますが、パソコンを使って、こんなふうには調べられないのではないかということで実際に調べたりしております。また、1階に情報センターがありますので、こちらの方で、自分の思っている課題に合う情報はないだろうかということで実際に行ってみて、2時間ほどでしたが、中学校1年生13人がそれぞれ体験していきました。

担当されている先生も一緒にいらっしゃっていましたが、学校でいろいろ話をしているより、実際に場所を見ながらということで、子どもたちのイメージもちょっと変わったのではないかなと思っております。いろいろな質問や、どういことが市民活動なのかという話をしまして、子どもたちも、自分の地域や家の回りや学校で思うところをいろいろ学習しておりました。総合学習の中で、今後もこういうことがふえてくるのかなと思っております。

続きまして、13ページに行きます。

現在、市民活動団体登録、1回目のときにも団体登録をさせていただいているというお話をしております。10月現在で、基本的に市民活動団体ということでは1,722団体です。春からで見ると148グループほどふえております。

その中で三つ、男女共同参画活動団体、消費者活動団体、環境活動団体ということで、ここの施設の活動目的にあるところに登録がございます。

続きまして、14ページになります。

こちらは、市民活動サポートセンターの支援の一つとして、印刷機でチラシをつくったりということがあります。先ほどの事業にもあったとおり、パソコンでつくったものを印刷して配布していくということで、印刷機やコピー、またカラーレーザーを設置しておりますので、その利用状況を載せさせていただいております。

続きまして、15ページになります。

相互利用ということで、前回もお話しさせていただきました。今まで、市民活動サポートセンターの

登録であれば、会議コーナーが活動支援の部屋となっております。今回は2日前からというお話をしておりますが、その2日前がいいかどうかは別として、2日前からの相互利用ということで、男女共同参画研究室、消費者サロン、ミーティングルームのそれぞれ使えるところを使っているという状況です。

ただ、全体の利用状況の数を出しておりませんでしたので、口頭で伝えさせていただきます。

男女共同参画研究室は、10月までに277区分のご利用がございまして、そのうち233区分が市民活動団体が、相互利用ということでご利用いただいております。

男女共同参画研究室だけは4階になるのですけれども、ごらんになったことある方はいらっしゃいますか。ちょうど4階に並んでいるのですが、24名の部屋が二つと12名の部屋二つの計4つの部屋があります。そこも、開いてつなぐことはできるのですけれども、会議コーナーとちょっと違いまして、個室になっていますので、最近はこちらの方の人气が高くて、4階はあいていますかという問い合わせが多いようです。

伊藤委員のWACCAさんもお使いになっていただいておりますが、どうでしょうか。

伊藤委員 市民活動サポートセンターで会議コーナーがとれなかったときに相談して使わせてもらっています。でも、それほど使用しているわけではありません。

事務局（志賀） 2階のサポートセンターの打ち合わせのコーナーは、机なども人数に合わせて自由に動かしていただくこともできますが、どうしても打ち合わせである程度個室が欲しいというときには、そっちの方でご案内しております。

それから、2階の方に、消費者サロンとミーティングルームという消費者活動のところと、環境のところのお部屋がございまして。消費者サロンについては、134区分のうち81が相互利用で、ミーティングルームにつきましては、218の区分のうち126、およそ6割程度が相互利用で、市民活動団体のみなさんに2日前からご使用の申し込みをいただいてどんどん使っていただくというふうにさせていただいております。

続きまして、16ページの方に行きます。

こちらは、市民活動サポートセンターの事業として受けております相談件数の集計です。

内容別、方法別、時間帯別ということで、それぞれ件数を出しております。

前回も、ファクス、メールがないのだねという話になりましたが、ここは10月になってもゼロのままで、面接でいらっしゃる方が多いという状況です。

時間帯別ですが、相談は、午後は2時半から7時まで相談員がいらっしゃいます。午前中は職員の方で受けておりますので、その数も入っております。

今回、17ページから19ページまでに、相談を担当されていますさっぽろパブリックサポートネットワークのみなさんにご協力をいただきまして、こんな相談があったという相談内容を出しております。ただ、ここに出ているリストはすべてのものではございません。相談に来られる方には、公開をしてもよいかという確認作業もさせてもらっていますので、公開してもよいという相談の7月までの内容となっております。

それぞれ答えや、そのときの相談の流れなどをそれぞれケースをつくって、今後とも検討していかなければならないと思っております。

利用状況その他、統計的な数になりますが、参考資料としてごらんいただきたいと思っております。

今年度、これまでやってきた事業など、この後検討をいただきます市民活動参加や促進、広がりのためのきっかけづくりということで、参考にさせていただければと思います。

この後、今の報告の質疑応答を含めて、杉岡座長に進行をお渡ししますので、よろしく願いいたします。

杉岡座長 それでは、今、かなり詳しく説明していただきましたので、大体把握されたと思っておりますが、お気づきの点やご質問などがありましたらお伺いしたいと思います。

相互利用状況集計表のところ、男女共同参画研究室は相当人気があるのですが、最高、どのくらいまでいけそうなのですか。

65が100になっても大丈夫なのですか。

事務局（志賀） 今、男女共同参画研究室は、24人のお部屋が二つと、12名、12名が二つの四つありまして、いずれも午前・午後・夜間の3区分になっています。

杉岡座長 この65というのは団体の数ですね。

事務局（志賀） そうです。利用の区分になります。

杉岡座長 ですから、どこまでふえても大丈夫なのかなということですか。

嶋委員 1日12枠ですね。

杉岡座長 12枠で20日でいくと、かなりいきますね。

嶋委員 240くらいになりますね。

事務局（大築館長） 月で120ですから、65だと半分くらいです。ですから、まだ余裕があります。

事務局（志賀） 今の稼働率でいくと、合計だと25%ほどで、それぞれの部屋で、24人定員の方でいくと30%です。それから、12人の方も、多い方で32%という利用です。

杉岡座長 それは、消費者サロンから男女共同参画の方に移っている人もいるということですか。

事務局（志賀） 消費者活動団体の方も若干入ります。ただ、先ほど団体登録の中にあるように、絶対数が少ないのです。消費者活動も10団体ですが、基本的に市民活動団体がベースになりますので、すべての団体が市民活動団体に登録プラス消費者、環境というふうになります。基本的にはすべて市民活動団体ということですか。

井上委員 今のところが少し気になっていました。この三つ部屋の全体の稼働率と、貸し館の方の稼働率が大きく差があいているのかなという感じがしています。あとは、会議コーナーの方も稼働率がいわけですね。そうやってきたときに、僕自身は、男女共同参画研究室を使う参画団体の一員でもあるので、いつでも使えるというのは、我々にとって非常に助かるのですが、会議コーナーと無料スペースの稼働率の差があり過ぎるというのは、もう少し効率的な利用があるのではないかと思います。

そのあたりは、この状況が続くようでしたら、割り方というか、参画研究室の四つのうちの二つを市民活動団体全体に開放するとか、そういう方向は考えられるのでしょうか。

杉岡座長 もう協議事項の方に入っていますね。

井上委員 そもそも市との関係でそういうことが可能でしたら、検討していただければと思っております。

事務局（志賀） 今言われたように、男女も4部屋と見ると、二つは男女共同参画団体の方がより有効的に、残っていれば、2日前と言わず、市民活動団体も使えるということでは、もっと利用率がふえます。その辺はこれからの検討もありますが、今の2日前というのが団体活動の中でいいのか、もっと早くから申し込めるといいねというお話も聞きます。これについては、これからも検討していきたいと思っております。

杉岡座長 2日前にならないと申し込めないのですか。

事務局（志賀） そうです。

杉岡座長 それはおかしいのではないですか。普通は1カ月前から計画しているでしょう。

横江委員 これは、四つが一つになったからこうなっているのであって、もともと四つで分かれていたからということですね。

事務局（大築館長） ばらばらでした。本来は、縦割りでしか使用できなかったのです。それが、相互利用で何とか.....。

横江委員 全然使えなかったのです。男女があいていても、市民活動団体は使えなかったのです。その四つが一つになったから、少しずつ.....。

坂井委員 融通がきくようになってきたのですね。

宇野委員 私なんて、いまだに使えないと思っていました。

坂井委員 我々もあきらめていました。

横江委員 前からいると、こっちは使えないものだと思ってしまいますね。

井上委員 4階は、夜の時間帯もあいているので、ちょっともったいないという気がしていました。

事務局（大築館長） コーナーに集合し、当日、部屋が空いていたら移動するというのもいいわけですか。あるいは、3・4日前から情報を受けて、まだ空いているか確認することは構わないと思えます。ただ、今までは、お互いの約束で出来た施設でしたが、今年度より複合として相互利用出来るようになりました。もちろん、男女共同参画の活動や研究をしているグループが優先的に使用出来るためにつくられた部屋ではあります。今は、皆さんがうまく使用していただいています。先ほど言ったように120分の65ですから、まだまだ余裕があります。使い方によっては、どんどんそちらを使用するこ

とは可能だと思います。

横江委員 ただ、余り利用率を高めてしまうと、既存の使っていた方たちが使いづらくなる可能性もありますので、そこをどういうふうにするかですね。

坂井委員 ただ、来年度から市民会館が使いにくくなるということを考えると、もう少し融通性を持つ必要もあるのではないかと思います。

杉岡座長 ミーティングルームの稼働率はどういう計算になるのですか。

事務局（志賀） ミーティングルームは、8名定員とちょっと狭い部屋になるのですが、ここは9月までに37.6%です。

ちなみに、先ほどお話が出ました有料貸し室の利用率は、9月までになります。78.2%です。9月だけでいうと82.7%という形です。それから、先ほど話題になりました男女共同参画研究室は、4月は6.4%だったのですが、5月で7%、6月で9.7%、7月で17.2%、8月は16.1%、9月が24.2%ということで、6.4%から24.2%まで上がってきています。

先ほど横江委員に言っていたいただきましたが、この4月から4施設になって使えるようになったということで、だんだん広まってきているかなと思います。

また、会議コーナーの利用率は、一番多かった6月が91.1%です。9月で80%です。80%を下回っているところが余りなくて、平均85%ぐらいの利用率になっています。これは、二つの部屋の利用が高かったため、そこでどうしても使えなかったりということが相互利用の方でご利用いただけるようになったというふうに思います。

確かに、2日前というところは、横江委員からありましたように、ふえればふえたでという話もございますけれども、今後、検討の余地があるかと思っています。

杉岡座長 ほかにご質問はありませんか。

嶋委員 今のところで、先ほど男女共同参画研究室が120区分と言われましたけれども、これは1日通して借りる場合であって、午前・午後・夜間と3区分にすると、1カ月で360区分になります。ですから、59件だと24%というふうに低くなるので、もっともって使えると思うのです。

それで、先ほど言われたように、2日前、あるいは、その日になって、フリースペースに集まって、あいていますかと聞くというのも利口な使い方だと思いますが、何人が集まってミーティングや打ち合わせをするときに、その日に集まって場所を決めようということは余りないと思います。だれに聞かれてもいいようなことや、フリースペースよりは個室の方がいいという程度の打ち合わせならわかりますが、きちっと会議をしたいと思えば、やはり戸の閉まるお部屋がいいなと思うと思います。

ですから、これは今後の課題ですが、2日前ではなくて、1週間前くらいになったら共有で使っているというルールに歩み寄っていただければ、もっと稼働率が上がるかなと思いました。

杉岡座長 360区分ですか。その計算でいいのですか。

嶋委員 4部屋あって、1日午前・午後・夜間となると3区分で12ですね。それに30日を掛けると360日になります。

事務局（大築館長） そうですね。済みませんでした。

事務局（志賀） そうです。360区分で間違いありません。

宇野委員 同じように、枠数で、消費者サロンやミーティングルームも教えてもらえますか。

事務局（志賀） 基本的に同じです。サロンは一つで、ミーティングルームも一つです。

坂井委員 いずれにしても、市民活動団体の登録団体数が1,722あるわけです。それに対して男女共同参画の団体が20ですね。これは、幾ら何でもアンバランスではないかという気がします。

杉岡座長 どのくらいのパーセントまでを許容範囲にして、日数を前倒しにして予約していいという枠をとれるのかという問題ですね。結局、最低1部屋は前の日まで確実にあけておかなければならないとか、そういう組み合わせになりますね。

伊藤委員 今の相互利用のお話ですが、僕たちWACAという学生団体も、打ち合わせのスペースも会議コーナーも埋まっているときは、消費者サロンなどをお借りしてミーティングなどをする場合があります。ただ、それは僕たちが何回もミーティングをすることで、こういうところを使えることを知っているからだと思うのです。ですから、今の何日前から予約できるということも大事だと思いますが、やはり、こういうところを使えることを知らない人や団体がすごく多いと思いますので、まずそれを知らせることも必要ではないかと思っています。

杉岡座長 それでは、もう検討事項に入っておりますので、本題の検討課題のところにも踏み込んで

議論をしていきたいと思えます。

皆さん、いろいろな団体や組織の中で問題を受けとめておられると思えますし、こうした相談リストなどにどう対応していったらいいのかということもあると思えます。ご自分の活動の経験も含めて、参加促進のきっかけづくりを少し洗ってみまして、この辺がまだ余力がけられていないのではないかと話があればご提案をいただきたいと思えます。

まず、このセンターを一番使っているのは井上委員のところでしょうか。

井上委員 そうですね。二つの団体とも、いつもお世話になっております。

杉岡座長 では、井上委員から、この辺をやればどうなのだろうというご提案をいただければと思えます。

井上委員 これは、提案といいですか、問題提起ということで、ぜひ委員の皆さんにも一緒にお考えいただきたいと思っています。

市民活動参加のきっかけづくりという点で考えたときに、前回も、市民活動に対する相談の主な内容として、何かやりたいのだけれどもという話があるということが報告されていまして。それで、実際にやろうというふうに興味関心がかき立てられる場合の多くは、例えばニュースなどを見て教育や環境などに興味を持つのだと思えます。ですから、実際に行動につながるような興味関心というのは、具体的にこういう問題を解決したいという思いを持っている場合が多いのではないかと考えています。

実際に、札幌遠友塾では、より多くの人たちを集めていこうということで、2年前から、スタッフ説明会を開いて、だれでも聞ける機会を毎年1回から2回設けるようになりました。今までは、テレビやラジオや新聞等をかりながら宣伝させていただいたのですが、実際に自分のやりたいと思ったことがここでできるかどうか分からないという面があります。よく、既存のメンバーは、そういうものは見ればわかるということで、とりあえず入れてしまっただけから見てもらおうと考えがちなのですが、それだけでは自分がやりたいことができるかどうか分からないのです。そして、よくわからないうちに1カ月くらいたって、興味関心が失せてやめてしまうというパターンが非常に多かったのです。

それで、初めから、うちではこういうことができますということを説明するようにしたのです。これは実際にあったケースなのですが、私たちは識字教育をやっている、社会生活に役立つことということで以前は介護保険の授業もやっていたのですが、あるとき、簿記を教えたいという方が来たのです。そのころはまだ説明会がなかったものから、とりあえずやりたいということで入って、我々としてはそういうニーズはないのではないかと考えたのですが、半年たっても受講生からそういう希望が来なかったものから、こたえられないと言っていたのです。そういうことをなかなかかわかってもらえないということが以前あったのです。

ですから、我々としては、ここまでやります、これはやります、これはやりませんということを初めからしっかり提示する必要があるのではないかと考えました。

そして、新しいスタッフの歩どまり 新卒の就職の離職率のようなものですが、以前は歩どまりが3分の1くらいだったのです。20人くらい入って10人も残らなかったのです。ところが、ここ二、三年は、20人くらいは入るのですが、歩どまりが6割から7割です。十四、五人くらいは、とりあえず1年間は続けていただけるようになりました。

結局、何が大事か、その活動でどんな教訓を得たかということ、一つ一つの団体がもっとオープンになって自分たちの活動を知らしていく努力が必要なのではないかと思ったのです。最初の話に戻ると、何かやりたいと思って来る人が多ければ、確かにイベント的なやり方も非常に有効ではあるのですが、このやり方だと、興味がありそうな活動の一つねらっていく、あるいは一つの分野をねらっていくという形でイベントをつくらないと、余り魅力的なものにはならなくて、参加したいと思えないのではないかと思えます。

それから、遠友塾のように本当にボランティア的な活動をするパターンと、もう一つ私がかかわっている札幌子育てネットワークのように、当事者と一緒に自分たちの問題を解決していくというか、事業をする側と享受する側がかぶっている場合ですと、実際の一つ一つの活動自体が広報活動を兼ねることになるのではないかと考えるのです。

札幌子育てネットワークの場合は、新しいメンバーがふえる一番の取り組みというのは、「聞いて聞いて私の子育てストレス」とか、「幼稚園講座」とか、本当に乳幼児を持つお母さんが抱えている問題をテーマにした交流会なのです。自分もいろいろ発言できますし、自分から参加できるような活動の魅力を知って、自分も入りたいということで会員になれる方がいます。地道なのですが、毎年ここか



ら、確実に10人以上の若いお母さんに入らせていただいているというのが実態です。

そう考えますと、イベント的なつくり方だけでは、そういう人たちが確実にふえるかどうかというのは難しいところがあります。今、僕が皆さんに紹介したことは、子育てとか教育とか狭い分野ですから、ほかの分野で同じような参加ルートになるのかどうかわかりませんが、もしなるのだとしたら、そういう形で支援するというのをいろいろ考えてもいいと思うのです。

僕が思うに、環境や福祉ということで考えると、何となく環境に興味があるとか、何となく高齢者に何かしたいとか、そういうことなのかなという気がしますので、その分野ごとに、的確な参加ルートや、それに合った支援の仕方を考えていくということが有効なのではないかと思います。

そのあたりで、皆さんが取り組みにかかわって、市民活動への参加ルートとか、そういうものに合った支援のあり方についてご意見をお聞かせいただければと思います。

杉岡座長 分野ごとの活動をアピールするような機会を設けた方がいいのではないかと思いますか。

井上委員 そうですね。あとは、個々の団体がすそ野を広げるというか、もっと広報活動ができるような支援とか、そういう仕掛けが何かないかなと思っているのです。

澤出委員 質問をしていいですか。

資料の16ページに市民活動サポートセンター相談件数集計表が載っているのですが、相談自体がニーズだと思うのです。井上委員は各団体の活動のアピールと言いましたが、団体と活動内容の紹介ということで、1,722団体が登録しているという数字が出ていますね。それで、こちらの方に福祉系とか環境系ということで相談に来たときに、1,722団体が登録していて、例えば手稲区から来た方なら手稲区でそういう活動をしている団体を具体的にご紹介するのが、パソコンでホームページから入っていくように教えてあげるのか、どういう形でこの方々たちのニーズに対応しているのでしょうか。

杉岡座長 相談員の対応ですね。

澤出委員 多分、このニーズに対応することが、そういう問題の解決につながっていくと思うのです。

井上委員 相談で参加ルートをつくるというのは、一番確実なパターンですね。

杉岡座長 団体の紹介などもやっているのですか。

三浦委員 自治体のセクションを紹介したり、具体的にNPOやNGOを紹介したりということはあります。ただ、我々もすべて把握しているわけではないので、検索をかけて紹介する場合もあります。

澤出委員 まだきちっとはできていないのですね。この1,722団体を把握して、うまくコーディネートするというか、相談する当人もアクセスできるように、その窓口になるという形にはなっていないのですね。

三浦委員 こちらのホームページに全部団体登録されていますから、こういう検索の方法はありますという教え方までですね。

杉岡座長 団体からのニーズはデータベースのようになっているのですか。私たちのところに仲間を紹介してくれとか、団体のニーズはどうやって調べているのですか。

三浦委員 センターのホームページでは、たしか団体側のニーズはなかったと思います。

杉岡座長 ですから、そのマッチングができないのですね。団体が何を求めているかがわからないと、紹介するといっても、本当に紹介して大丈夫かとか、対応してもらえるのかとか、ちょっとわかりませんよね。ですから、団体のニーズと相談のニーズがマッチングするような場面も想定しなければいけないと思いますが、たまに団体のニーズ調査をやりますよね。ですから、団体に呼びかけて、どういふことをこういうところをお願いしたいのかとか、そういう懇談会をやった方がいいのかもしれないですね。

横江委員 今、札幌市の委託事業で2件、ボラナビさんとNPO推進北海道会議さんが200万の予算でこれはそれぞれの事業が200万なのですが、来年の3月まで、団体が必要としている人材と、個人が活動したいと思っているニーズのマッチング事業と場の研究という二つの事業が動いています。

ただし、それは受託した団体さんの手法でやっているのですけれども、僕が提案したのは、エルプラザで幾つも団体を持っていますから、その事業とは別に、せっかく身近な団体データをお願いして、全件出してくれなくても、50%以上でも1,000件近いデータがとれるわけです。それで、来る方たちのニーズを聞いていけば、200万もかけて特別な事業を展開しなくても、こちらでかなりのデータ

をとれると思うのです。

杉岡座長 なるほど。登録している団体にメールで問い合わせすることは可能なのですか。

横江委員 ニュースが流れているので、ある程度は……。

杉岡座長 メルマガのようにね。

坂井委員 ただ、1,722団体のうち、パソコンを操作できる団体がどれだけあるのかということ  
はわからないですね。

横江委員 どういうふうに調査しますかと言われたときに、全部送ってくるのです。ちょっとおかし  
いなと思ったのは、二つの団体が受託して、二つの団体がそれぞれうちの法人にメールを送ってくるわ  
けです。市が関与していて、同じ調査をやるのに、質問項目は違っても、あて先は大体同じですよ  
ね。なぜ一緒に送れなかったのかなという疑問点はちょっとあるのですが、それは一つ一つの団体が受託し  
ていますからしょうがないですね。

杉岡座長 それは、年度をかえてやればいいのではないですか。

横江委員 ただ、目的が違うのです。場の研究とマッチングの研究があるのでちょっと違うのです  
が、ちょっと疑問に思った点があります。それはそうとして、今、それぞれ調査を始めております。

ただ、調査でいつも問題になるのは、せっかく出たデータをいかに生かすか、来年3月に出てきた報  
告をだれがどういうふうに活用するのかというときに非常に困るのです。でも、ここは、今の部屋のこ  
ともそうですが、即、生かせるなと思います。ですから、やればすごく生かせると思います。

それから、インターネットの環境にないということも思ったのです。ただし、ここにはかなりの団体の  
人たちが来るわけです。インターネットの環境があってもなくても、とにかく来るので、来たときに全  
部コンタクトできるのです。必ず来るのです。2カ月に1回、部屋の予約をするときも、今は三百何団  
体だと思いますが、必ず来るのです。うちの団体も2カ月に1回来ますけれども、必ず来るのです。来  
るということは、部屋を使っているわけです。ですから、かぎを渡すときに資料を渡すと……。

杉岡座長 まともに使っている団体が300くらいあるということですか。

事務局（岩尾課長） 今のは、有料貸し室のお申し込みの件だと思います。ちょうど12月1日と2  
日が初日受付で、向こう2カ月、3カ月前のお部屋の申し込みを受け付ける日なのですが、その1日、  
2日に申し込みたいとご希望になる団体が、男女共同参画センターの有料貸し室の登録団体は4,  
000くらいあるのですが、そのうちの372団体がお申し込みになっておりますので、だまっ  
ても1日、2日は350団体の方とお会いできます。それが2カ月ごとにあるという状況を今お話しして  
くださったのだと思います。

井上委員 ちなみに、市民活動登録団体の方はどうですか。これはイコールではないですね。市民活  
動登録団体で、実際に機能しているというか、ここを実際に使っている団体はどのくらいなのか。

事務局（岩尾課長） 有料の部屋はさっき言ったような形ですが、貸し室の稼働は80%くらいです  
ので、280団体くらいになります。それは延べです。でも、少なくとも280団体がお使いいただ  
いているので、毎日毎日の積み重ねが出会いになります。同じように、毎月定期的に使いたいとい  
うことで、先押さえで2カ月、3カ月前に予約を申し込んでいただく団体が40団体くらいありま  
す。2カ月に一遍、40団体とはコンタクトをとれる状況にあります。

三浦委員 今のは企業も入っていますか。

事務局（岩尾課長） 市民活動団体に企業は入っておりませんが、有料貸し室については、10団体  
から15団体くらいの企業が入っています。ただ、一般団体は初日受付ということでお申し込みは  
いただけるのですが、企業は、一般団体の皆さんが申し込んでいただいた最後の方に申し込んで  
いただくということで、370あったとすると、350番くらいから申し込みをいただける状況にな  
っております。

嶋委員 市民活動へ参加する促進のきっかけというところでは、今まで、こういうところにかかわ  
っていない人をいかに市民活動にお誘いするかということですね。そういう点では、エルプラザが行  
う事業の中でいかに今までにかかわっていない人にかかわってもらうか。もう一つは、今言わ  
れているように、既に市民活動をしている団体の人たちにいかにマッチングさせて、自分の目的  
や要望に合ったところにかかわっていただくかということだと思います。

それは2通りあると思っています。まず、この事業の中にどうやって初めての人が来てくれる  
のかということでは、1ページに事業がありますね。この中を見ていくと、定員を超えて参加  
したりということも含めて、参加率のいいところは、目的がしっかりしたチラシをつくるとか、  
会計を習うと

か、自分の課題に合ったところに参加していると思うのです。6番目の「可能性を形にしよう」というところでは、漠然としていて、多少興味のある人は来るけれども、定員になるほど人が集まらないというのが数字で見るとあらわれていると思います。やはり、個別課題的に今のニーズに合ったものを拾って事業をしていくということが、いろいろな人にたくさん来てもらうということにつながるとは思います。

あとは、今活動している団体といかにかかわってもらおうか、そのマッチングという意味では、今言われていたように、データベースといいますか、登録団体は確実にわかっているわけですから、そういうところと再度コンタクトをとって、あなたの団体には人を紹介していいですかという確認をとる。それから、自分たちの活動の紹介を、自力でできる場所もあれば、パソコンを使えない団体もたくさんあると思いますので、多分、人手も予算もかかると思うのですけれども、登録している団体が市民に活動を紹介できるように、市民団体に登録するとホームページの1ページ分で活動を紹介できるというものがあるとすごくいいなと思います。今は自分たちではできない そのうち自分たちが実力をつけてホームページを立ち上げられるようになればいいのですが、そういう技術などの後押しがちょっとあれば、市民とのパイプが太くなるのではないかと思います。

杉岡座長 宇野委員、この関係ではどうですか。

宇野委員 きょうの議題がちょっと漠然としていて、この後、任期中にどういうふうに進んでいくのだろうか、今日はぼんこの議題が出ましたけれども、言いたい放題言って、次はまたぼんと何か来るのかな、これは座長だけが知っていることなのかなと思っていました。市民活動の参加促進を2時間で出し合えるかなと、ちょっと不安に思っています。

この資料を事前に見ていて思ったことは、まず、私はここに団体登録しています。ただ、ここを利用することには直結していないのです。それで、私が委員になって求められているのは何かとずっと考えていました。先ほどの話に戻ると、市民が何か活動しようとしたときに、お手本になるような団体の情報がここにあって来ると思うのです。今、活動を続けてきてうちの団体は何かのアンケートに答えてご相談に乗りますよと言っているわけではないのですが、私どもの方へ電話の問い合わせが来るのです。それで、先ほど井上委員からも、やりたいことがわからないという相談もあることとおっしゃいましたが、そういう人もいました。こんなことをしたいのだけれども、何々と何々が無いというふうに、ないない尽しの相談が結構あるのです。

この相談リストを見ると、これを聞かれて、何と答えたのだろうかということが気になるのです。私どもにかかってくる電話に、私たちは自分たちの体験から話せるのですが、相談員になって、全市の個人や団体を抱えた人たちのありとあらゆる相談に答えるのはすごく大変だと思います。そのための情報は、私どもが登録したときは、今ストックされている登録団体の中身はすごくアバウトな内容だったのです。

また、この1,722団体というのは、ずっと増えていっているけれども、もしかしたら、もうなくなっている団体も入っているのではないかと危惧しているのです。

そんな中で、相談員の人は大変だなとつくづく思ったのです。

それから、こういう事業をしたという報告があるのですが、これはほとんどアウトプットです。こんな企画をして、何人を対象にして、これだけ来てくれました。私は、どうして定員が決まっているのに定員オーバーで参加させているのだろうと思っていました。この人数でと決めたのならそうやって企画していくものだと思うから、なぜ定員オーバーなのにそれ以上来ているのかと思ったのです。つまり、その前に企画側が一体幾らかけて事業をしたのかとか、これは無料なのかとか、これは有料で1,200円払ってもらおうのだというようなインプットがあり資料にあるアウトプットになるわけです。しかし、市民活動というのは、こういうものではなくて、アウトカムが大切であり、そのような情報がこのセンターにあつたらすてきなと思います。

私にすれば、とてもすてきな講座が並んでいます。それなのに、来た人の意見などを見ると、漠然としているのはだめなのかなと。でも、あなたの力を形にしましょうという成果物が得られる企画には皆さんの参加があるわけです。例えば、一緒に考えてみようという企画でも、参加した人が得た気分とか、たまたま同じ場に来た人同士がつながったとか、そういうふりかえりアンケートは取っていないのか。ですから、そういうアウトカムをここで積み重ねていったら、このセミナーに関してはいいのかなと思ったのです。

杉岡座長 議題が(漠然としていましたが)そういうことを言っていたらいいので。

宇野委員 余談ですが、ついこの間、総会がありました。この時期になったら、来年はどんな活動をしようということを実行でやるのですが、私どもの団体では、今までいろいろな団体や個人とつながって、こんなことをやってみようというのが出てきて、その中から選択して翌年の計画ができていくようなところがあります。それで、問い合わせもいただくので、フォレストーズクラブをたたき台にして合同総会をやりませんかということを実行したのです。そうしたら、24名くらいの人に来てくれて、団体に所属している人が8割、企業が1割、行政が1割、様子見で来てくださったのです。実際に、パネラーが何人かいて、調査の専門家とか、研究の専門家とか、行政・企業の方もいましたが、私は実際にこういうことができるという話をしてもらったのです。そういう話を聞きながら、どうつながるかということを実行の中でやっていたのですが、終わった後にいただいた感想の中に、フォレストーズがやらないならうちがやりますという答えがあったのです。ああ、やってよかった人と人がつながるといえることが大切だと思いました。この資料にある問い合わせで、一人で抱えて、大変で、もう疲れているからだれかかわってくださいというのを見ると、一人で抱えているところに比べたら楽をできているのだなと思います。個々の中で終わらないで、つながることで団体ができて、違う団体とつながっていくと、豊かで楽しくと言うと語弊があるかもしれませんが、継続していく力がわきます。そういうことが見えたという意味で、合同総会はちょっとおもしろかったのです。その後、とられては困るということで、うちでやるにはどうしたらいいかとスタッフが必死になっていますけれども、そのやりたいという団体と一緒に合同企画を立ててみようかとか、そんなことがありました。

ですから、ここがアウトカムのようなものを積み上げていってくれたら、うちはもっとエルプラザを利用するかなと思います。そして、あそこへ行くとアウトカムがたくさんたまっているよということを実行がどんどん言う立場になるのではないかと思います。

杉岡座長 結局、指定管理者制度になって、営業活動にどうやって力を入れたらいいかということがこれからの問題なのです。ですから、小回りがきくニーズをすぐにつかんだり、アンテナを張ったり、仕掛けたりということを実行するために志賀さんが来ているわけです。それで、きめ細かくイベントなどをやるために、ニーズを全部フォローして、企画はうまくいったのかどうかということを実行いろいろ情報収集して、どんな手を打ったらいいのかとか、アウトカムを積み上げていくためにどうすればいいのかとか、三浦さんなど相談を受けている人はどういう人が手伝ってくればもう少しうまくさばけるのかとか、いろいろあるわけです。これは、問い合わせを整理するだけでも膨大な作業ですね。延々と聞いて、結局何を知りたいのかという感じで、1日3件くらいやると疲れてしまうという問題もあります。

どうやって相談に応じたのかという記録は、どの辺までつくるのですか。

三浦委員 これは質問ですけども、この横に実際の回答例があります。

杉岡座長 実際に相談に対応してみて、今の体制でそこそこカバーできているのか、本当はもう少し人手がないとできないのだけれども、一応は対応しているのか、その辺はどうですか。

三浦委員 今は、5人体制で、日がわりでやっています。人数的には毎日かわるのでいいかなと思います。ただ、先ほども言いましたけれども、これだけ団体があると情報をつかみ切れませんから、全部紹介するというよりは、検索技術を教えた方が早い場合もあります。ですから、我々は今、いかにたくさんの方の情報を5人で共有するかということに焦点を置いてミーティングを重ねているのです。

井上委員 そういう場合に、データベースなどを活用することが多いと思います。それで、マッチングの問題になると思いますが、マッチングしようと思ったときに、どういう情報が一番欲しいのですか。逆に言うと、団体の側が余り提供していない、足りない情報としてどういうことがありますか。

三浦委員 答えになるかわかりませんが、来る人にレベルがあります。全く分野が定まっていない人と、分野だけが定まっているけれども、動いていない人がいます。あるいは、何回か動いてみたけれども、そのままになっている人とか、実際に動き出している人とか、レベルがありますので、その人たちによって必要とするものが違います。ですから、すごく多岐にわたっています。

ただ、今、センターのホームページの登録項目を見ますと、すごく詳細に書かれていますので、あれでかなりのデータはつかめるのです。

宇野委員 逆に、求めてくる人より、団体側が受け入れる体制にあるかどうかという情報が少ないですね。

三浦委員 実際にスタッフを求めているかとか.....。

宇野委員 ちょっと体験させてほしい、やってみたいと思って検索しても、うちは会員制なので無理ですとか.....。

澤出委員 研修システムをちゃんと持っているかどうかとか……。

宇野委員 そうですね。ここに何がぶら下がっているかで受け入れるかどうかとか、案外閉じられている部分が団体側にあるような気がするのですけれども、そういう情報はないのですよね。

三浦委員 ないですね。

澤出委員 それは大切ですね。こういう市民活動を広げていくためにはね。

杉岡座長 それで、今、調査を委託されてやっているのですね。あの委託は、この協会が出しているのですか。市ですか。そのデータは協会がどこまで使えるのですか。

事務局（大築館長） これから市にお話をしなければなりません。

杉岡座長 目的外使用とか、調査者と協力者の関係がありますね。つまり、データを横流しされると、勝手に利用させていいのかという苦情が出ますよね。こちらから問い合わせ、市の方がトンネルでデータを流しているということになるとね。ですから、どういう目的のときには使えるようにしてあるというものが必要なのですね。

澤出委員 それにしても、税金が入っているでしょう。

坂井委員 僕はいつも感じるのだけれども、今はデータを使うということになっていきますけれども、以前は、そこまできていない間はブックになっていたのです。年に一回、名簿という形でね。ところが、予算がなくなったら、そういうものをつくらないから、1年たったら何割かは使えなくなってしまっていて、新しく追加がないのです。そうすると、四、五年もたつと半分くらいは使えるのかなというデータになってしまうのです。

澤出委員 ただ、今、区ごとに、NPO活動やいろいろなことをしている人たちのデータは毎年更新されて出ているのです。ただ、物を言わないから、宇野委員がおっしゃったように、本当に困っていて生の声で体験を聞きたいのだろうと思いますので、パソコンや紙ベースとは違う、さっき言った研修制度とか、そういうものまで幅を広げていくと、認識が違ってくるのではないかと思います。

それから、全然違うことを言いますが、ちえりあというのは何なのでしょうか。あれは、どういうふうに差別化したらいいのでしょうか。私は今まで同じだと思っていました。

杉岡座長 あそこは学習センターでしょう。

澤出委員 生涯学習センターですね。あした、私は頼まれて行くのですが、あそこも同じような研修をしていますね。差別化をしないと、私のように余りあちこちに行かない者はわからないのです。どう違うのかわからないのです。

杉岡座長 この組織との違いですか。

澤出委員 ちえりあも、エルプラザと似たような教室をやって、会議室も貸しているでしょう。同じような活動をしているのです。名前が違うだけです。ですから、きちっと差別化をしないと、私のような人がふえるのではないかと思います。

杉岡座長 ちえりあを使っている人がここも使っているということは結構あるのですか。

宇野委員 ありますよ。

杉岡座長 では、使っている人の目的によって使い分けられているということですね。

嶋委員 ちえりあも複合施設なのです。生涯学習センターと教育研究所と青少年センターとリサイクルプラザが入っているのです。その四つの複合施設で、貸し館は全部共有で、生涯学習センターが生涯学習の目的でいろいろな講座をやっています。

澤出委員 似たような講座ですよ。

嶋委員 講座は似ています。

澤出委員 ですから、私の中では混乱するので、そこら辺も市民に明快にわかるように、きちっとしていった方がいいですね。

杉岡座長 似ているものがあれば選べるということで、遠い人はあっちの方に行くとか……。

坂井委員 僕が選択する場合は、地理的な問題で……。

杉岡座長 南北線なのか東西線なのかで決まっているのではないですか。

宇野委員 使い勝手もあります。ここは印刷機の予約ができますね。ただ、生涯学習センターは予約が一切ないのです。ですから、電話をして、「今は空いていますか」と言うと、「今は空いていますけれど、来たときには埋まっているかもしれません」と。なんとという管理だと思うのですが、慌てて行くのですよ。

嶋委員 ちえりえに印刷スペースがあったのですか。

澤出委員 あるのです。

嶋委員 私は手稲区ですが、知りませんでした。いいことを聞きました。

宇野委員 そして、作業後に版代を支払いますが、こんなに大きな領収証をもらえるのです。

杉岡座長 ここと料金も違うのですか。

宇野委員 ここは幾らでしたか。

事務局（志賀） 今、製版が1枚30円です。

宇野委員 あちらは50円だったかな、確認が必要です。

事務局（大築館長） 私は、ちえりあをつくったときにいたのです。ちえりあは、部屋の中に印刷機があるのですけれども、だれがついているわけでもないのですね。一方、ここは、折ったり、製本したりまで全部できるということで皆さん来るようです。向こうは、せっかくあるのに使われていないのです。

嶋委員 知りませんでした。

宇野委員 個室でありますよ。

嶋委員 わざわざこっちまで出かけてきていました。

杉岡座長 横江委員、こういうふうにした方がいいのではないかと提案はありませんか。

横江委員 多分、個々の団体はそれぞれ努力してやっているのです。ただ、なかなか思ったほどやれないということもあるのかもしれませんが。エルプラザは非常に便利です。一番いいところにありますし、条件的にはかなりいいと思うのです。ただ、やっている人たちは一生懸命やっていて、いいと思ってやっていますけれども、ふらっと来た市民さんや相談に来た方たちというのは、自分である程度強い意思がある人は自分たちでつくってしまうか、自分からどこかに飛び込むかするのですが、なかなかできない方たちが多くと思います。それは、今言っているように、団塊の世代をたくさん取り込むとか、逆に取り込むというよりも、その人たちが自分たちで主体的につくれるのではないかと期待の方が大きかったり、やりやすいのではないかとっています。

そういうことを考えると、ここにいる団体の細かなマッチングをするということも必要だと思いますが、先ほど言ったように、こちらは地の利があるし、多くの団体さんが来ているので、そういったデータもとりにやすいし、それを生かすということもできるだろうと思います。ただし、それをやったからといって、来た人を全部どこかにマッチングできるかということ、これまた難しいのです。100人来て、100人が要望する事業や団体が100あったとして、では、その人たちがそこにうまくマッチングするのか、こういう人材が欲しいといったときに、そうなるかというのは非常に難しいと思います。ですから、エルプラザの中でもっと緩やかなネットワークが各団体とできるような活動が何か生まれませんかと思っています。そうすると、個人でも団体でもエルプラザに集っているメリットを少しずつ感じてくれるのではないかと。そうすると、自分たちの施設だという意識も高まるし、エルプラザ自身が何か企画をやったときにも、ある種、喜んで参画できるようになるのかなと思っています。ただ、それをどういうふうに仕掛けていくのかというのはまた難しい問題です。実は、坂井さんと連合会でそれを苦慮しながらやっているのですが、なかなか難しい課題ですね。十幾つの団体の企画の中でもなかなか難しいです。

ただ、それでも、その中で本当に友好的にやってくれる団体は何十かはあると思います。そういったものを核にして、地域に、あるいは札幌市にどんどん発信していくと、何か知らないけれども、エルプラザに集う団体でこんなことをやっているらしいというふうに広がって、あそこに行くとか何かいいことがあるのではないかと。そして、やっている人たちの中では実際にあるのですが、そういった吸引力を持っていかないと、なかなか難しいかなと思います。

でも、何かできそうですよね。

杉岡座長 伊藤委員はどうですか。

伊藤委員 先ほど話題になっていたデータベースをつくる、つくらないという話は、横江委員が言われたように、そんなに大きくないのではないかと思います。というのは、こちらに相談件数が半年間で304と出ていますが、304件全てがマッチする団体を紹介してほしいという内容ではないと思いますので、100件とか50件とかそれくらいの数かだと思います。半年間でそれくらいの人数なので、データベースの話はそんなに大きくないのではないかとっています。

ちょっと話が行ったり来たりしているので、焦点を絞った方がいいと思うのですが、まず一つは、今の話を聞いていて、アンケートをとってみる必要があるなと思いました。それは、この場にいろいろな

団体を代表して来ている人以外の団体のニーズを知らないと、この場でどういう形がいいのかと考えることができないと思います。ですから、相談リストだけでも不十分で、いろいろな団体が市民活動サポートセンターにどういうことを求めているのかということを知らないと、なかなか話すのが難しいかなと思いました。

その上で、きょうの議題の市民活動参加促進へのきっかけづくりについては、横江さんが言いましたが、私も緩やかなネットワークが必要かなと思っています。今、インパクトという名前の学生団体が存在します。インパクトはいくつもある小規模な学生団体をつなげてネットワークをつくらせようと活動している団体です。インパクトが中心となって学生団体が集まってイベントをやるような機会を持つことも増えてきました。私はこういうことに興味があるのだけれども、団体がいろいろあってわからないという人が、そのイベントに参加し、いくつもの団体の説明を受けて、関わってみたい団体が見つかるということもありました。そのような試みが今、学生の間で動き始めています。たくさんの団体がありますので、みんなでつながるようなものがあると参加しやすくなると思っています。

もう一つは、知らない人に知らせていくために、エルプラザをもっとオープンにしていく方がいいかなと思っています。例えば、学生という立場で、僕の友達に聞くと、みんな北海道大学で普通に学生をしているのですが、エルプラザが何をしているかということを知っている人はほとんどいません。大学の目の前にあるのに、だれも知りません。ですから、まずそういうことを知らせていく、エルプラザ自体をもっとオープンにしていくことが、市民活動への参加につながっていくのではないかと思います。

杉岡座長 オープンにするというのは、もうちょっとアピールするということですか。

伊藤委員 そうですね。

一つ具体的な例を言いますと、1階をもっとうまく使ったらいいのではないかなと思っています。

杉岡座長 使い方ですね。

伊藤委員 使い方もそうですし、宣伝とかいろいろあると思いますけれども、札幌駅に出てきて、ただ通るだけの人は全然わかりません。2階に行けばいろいろな情報があふれているのですけれども、1階はただの通り道みたいな印象をどうしても受けてしまいます。例えば、1階をもっとうまく使うということですね。

杉岡座長 ここは、どっちかというオフィスビルのような感じですよ。

坂井委員 僕は、できた当初から見ていて、これは1階と2階を逆にすればいいのだよなと思っていたのです。

宇野委員 前回の会議の後に、1Fの柱のところを見まして、係の人にお話を聞いたのですが、実は、来館者の意見なり苦情なりに対して、ここの管理者が答えているボードがあるのです。きょうもそこを見てきましたが、回答が増えていました。ここもそうなのかと思ったのですが、今おっしゃったように、学生、高校生、中学生が勉強する場が今はないのです。ちえりあも同じで、学生が追い出されるのです。そして、ここの施設も同じような問題があって、そういう質問に対して管理者から答えがあったのですが、さらに、私もあの子の言っていることはよくわかる、何とかもっと考えてあげなさいみたいな会話がずっとつながっているのです。それに対して、杓子定規ではなく対応していきたい、ちょっとお時間をくださいという優しい言葉で、今、回答を待ってもらっているようなのです。

ですから、どうしてここは学生がいられるような場所がないのか。せっかく同じ建物の中で何かやっているのであれば、活動へのきっかけが生まれるのではないかなと思ったのです。

中学生や高校生に聞いても、エルプラザや、市民活動のセンターがあるということも全然知らないですね。先ほど言われた見学で中学生が来たというのは10月ですか。

事務局(志賀) 11月です。

宇野委員 では、このカウントには入っていないのかもしれませんが、私はたった1校なのかなと思ったのです。せっかく地の利があって、交通の便もよいので公共交通機関を使ってとか、何かできそうなのに、学校の先生が全然連れてこないというのはよく聞く話なのです。ほかの3施設も、環境プラザの展示を小学生が見たことがないということもそうだし……。

事務局(志賀) 今、総合学習で来ているのは、環境プラザが数的には多いです。資料の11ページに人数しか出ていませんが、環境プラザでの総合学習の中に、10月は227人というふうに出ています。今、市民活動は一つですけども、環境の方に来ている数が多いです。

杉岡座長 若者が来ているというのは、自習室を探しているということですか。要するに、図書館に行くようなものでしょう。

横江委員 4階に行きますと、あそこで学生が勉強しているのです。そして、下のボードを見ますと、わけのわからない人が長時間いてどうのこうのとか、ああいう人はどうなんだとか、いろいろ書いてあるのです。そして、警備さんも回っているのです。

ただ、私は、あそこで勉強しているのはいいのかなと単純に思うのです。4階のところで学生さんが結構勉強しています。

杉岡座長 それは、予備校生が使っているのですか。

横江委員 何だかわかりませんが.....。

宇野委員 私は、ここの現場は見えていませんけれども、中で勉強するという場が今は余りないので。ですから、どうしてちえりあやエルプラザはオープンにしないのだろうと思っているのです。

嶋委員 ちえりあは、2階が.....。

宇野委員 あそこもいっぱいになるのです。

嶋委員 いつも満員ですね。

宇野委員 ほんの小さなスペースです。あそこも場所どりが大変なようです。

坂井委員 ただ、余り学生さんで占められてしまうと、市民活動とは何だという話になってきてしまう.....。

宇野委員 でも、未来の市民活動家ですよ。

澤出委員 そういう人たちに参画してもらわないと、後に続かないのです。

宇野委員 話を続けると、先ほど伊藤委員がおっしゃった1階のつくり方という話と関連しますけれども、この施設は、つくった人は相当考えたと思うのですが、なじみづらいというか、余白がないのです。公共の建物はみんなそうなのかもしれませんけれども、市民が何かを慈しむみたいなの、かかわりを持つということがないのです。はい、できました、使ってください、使い方はこうです、これ以外はいけません、あとはだめだめがあちこちに張ってあるのですね。ですから、利用者が来てそれを評価できる、そして、利用している人がタイル1枚に愛着を持てるように、余白をもっと公開するのはどうでしょう。きっと、管理者は臆病になると思うのです。でも、ここだったらそういうことが出来ないか、1階のリニューアルをみんなでやるのはどうかなと思ったのです。

杉岡座長 そう言われれば、この部屋も殺風景ですよ。

宇野委員 ちえりあをつくったときに、あそこは西の光を取り入れるとかで、アナトリウムと言うのでしょうか広場が吹き抜けタイプにしたのですが、そこに手づくりの染め生地を市民の参加でつくったのです。ところが、高すぎて細かい絵柄は見えないのですね。でも、つくった人は、あれは私がつくったのという愛着があったりするのです。ここは、そういうことが余りないのです。立派な彫刻が玄関にあたりするけれども、市民が何かをしてちょっとプラスワンするような仕掛けがどこにもないのです。

入ってすぐの真正面に守衛さんがいるのは何か嫌だという意見も下に書いてあったと思います。でも、回答があるというのはいいと思います。管理者からの回答の中には、守衛さんにもっと気軽に声をかけてくださいとあるのですね。警備のあり方とか、ご要望があればいつでも声をかけてくださいとね。しかし、私も、あのカウンターは何なのだろうといつも思っていたのです。

ですから、1階をつくり直すというのはおもしろいかなと思いました。

澤出委員 集えるようにね。

井上委員 伊藤委員の発言にかかわってですが、実は、僕がこの委員にかかわったときの一つのテーマは、21世紀の公民館をつくれるのではないかと、今、札幌に必要なのはそれなのではないかということなのです。まさしく、今お話があった1階をどうするかというのは、ふらっと来た人たちが何かの取り組みにかかわれるきっかけや居場所をどうつくるかという議論だと思います。

実際に、ここを運営している団体はLet'sも運営しています。それで、手前みそなのですが、北大の私たちの後輩が、居場所づくりということで、北大元気プロジェクトということで北大からも少しお金をもらって、学生ボランティアと中・高生を集めてやっています。やはり、その中でも、勉強を教えられる場所をつくったり、居場所をつくったりということがあります。ですから、個々ばらばらに来ている人たちのつながりをどうつくるかということだと思いますけれども、そういうスペースを1階にどうつくっていくかということを出し合っていくのは大事だなと思いました。

もう一つは、学校教育もそうですが、今、大きく変化しているのは、例えばボランティアを通じて体験的に行政などへ参加していこうという流れが、小・中・高というふうにでき上がりつつあると思いま



す。そう考えていくと、今、伊藤委員がいろいろ努力されている学生グループのつながりもそうだし、ここの市民活動団体の中にも、大学生が高校生のボランティアの場を提供するというのを10年近くやっているグループもあるのです。我々としても、学校教育の場面にもかかわっていくようなきっかけなどをつくっていくというか、さっきのロビーの話に戻りますが、そこで我々や市民活動団体の力をもっと活用していくということだと思います。

それから、市民活動団体がアピールする場ということだと考えると、今はチラシだけなのです。実は、そういう殺風景なスペースを活動の紹介のスペースに充てていくと、中にいるのはどういう人たちのかということが、その人がいなくてもわかりますし、もっと人間味があふれる施設になるのかなと思いました。

これは、三浦委員に申しわけないなと思うことがあるのですが、職員の方も含めて、札幌友遠塾についての相談を受けたりするのですけれども、僕らも事務ブースに常駐することができないので、後で聞くのですね。もし直接会えていたら、そういう話などを聞いたのかなと。僕のところのホームページは公開しているのですが、あそこにパネル1枚でもあったら、うちは何をやっているかということがわかって、ボランティアをやろうか、とりあえず見ているだけにしようかという判断がついたのかなと思います。

そういう意味で、情報と言うと人間味がないのですが、人間味があふれるような、そういう様子がかかるような情報に囲まれている場として1階のロビーを使っていく、その延長線上で、2階ももっと専門的な情報を充実させていくという方向があるのかなと思って聞いていました。

横江委員 非常にいいですね。主たる団体というか、協力している、ここに集っている団体が何十かはあるでしょうから、そういうものを構築していくと。

それから、うちが常にやりたいと思っていてできなかったことが一つあります。うちは、毎月、エルプラザを使ってやっていますが、大学生のインターンシップ制を入れたかったのです。大人の講義なのですが、その中に入ってもらって、一緒に話を聞いて、多分理解できると思いますが、司会とか、ショートスピーチや記録などもやって経験を積んでもらうということです。

エルプラザにはいろいろな団体があるので、そういう講座にインターンシップ生は入っていいよ、オープンにしているよという団体は幾つかあると思うのです。ぜひ入ってくださいと。2人入ったら2人ふえるということもあります。うちは10人や20人でやっていますので、さらに2人入っていただく。

ですから、エルプラザに行くと、大学生や高校生、時間帯によっては中学生もいいですね。中学生向けにはオープンにしているよとか、いいよという団体が協力して、あそこに行くとそういうこともやっているのかと。裁判所の見学ではないですけども、各団体の体験ができるというものもおもしろいのかなと思います。それだったらすぐにできそうな気がします。

責任の問題はあるかもしれませんがね。けがをしたらどうするかということがあるかもしれませんが、うちはそれをすぐに受け入れたいと思っています。

宇野委員 あとは、ここに集うだけではないというものはどうなのでしょう。便利なものだけれども、なぜここまで来なければいけないのかというものです。

嶋委員 自分が興味関心があって、そして自分の行ける範囲ですね。例えば、地域の中で参加できる市民活動をどういうふうにするか、あるいは、すごく遠いものだけれども、札幌の中にはここしかない、遠いけれども、そこに行きたいというものをどういうふうで紹介するかというもこの役割だと思います。

澤出委員 そうだと思います。二つあると思います。ここを中心にやる団体と、189万の人たちがいる地域のニーズとマッチングさせるかということですね。役割というのは、札幌市の建物で、市民活動と銘打ったからには、必ず四つや五つくらいは複合的に出てきて、それが一つになって本物になっていくのだと思います。

横江委員 そうすると、今、札幌市がやっている二つの事業のデータも非常に生きてきますね。ここでも集中的に管理や情報の更新をやってもらえればね。

澤出委員 それが、前回、9月に集まったときときょうのお互いにどうやっていったら、ここが市民活動の拠点、本拠地になるかと考えたときに、核があって、そこから地域に行くと。先ほどから皆さんがお話ししていることを、相互支援のような形で、エルプラザで活躍している団体と地域にネットを組んで、相互支援でうまく絡んでいけばできてくるのかなと思います。中学生や高校生も入ってくるよう

なものです。赤ちゃんから100歳まで市民ですから、余り特化しないで……。

嶋委員 ボランティア活動センターというものがあって、そちらにも登録しているけれども、こちらにもという意見が前にありましたね。向こうからこっちに移行してきたというのがあります。どの団体がどうということまで公表しているか、人手を募集しているかというところで、ボランティアを定期的にとか、1年のこの時期にという情報を、ボランティア活動センターへ行くと張り紙をしてあるのです、あそこに行かなければ見れないのです。そうではなくて、ここのデータベースとリンクさせて、ボランティア活動などに参加できるのもここで同時に共有できるというふうになると、また少し幅が広がるのかなと思います。

澤出委員 そうすると、ちえりあと完全に差別化できますし、きちっと個性を持っていけるのではないかと思います。周知というのは大切ですね。たくさんの方がわかって、活動の内容もわかるし、どことネットを組んでいるかもわかるという情報がちゃんと入ってくればね。

杉岡座長 先ほど宇野委員にざっくりやられたのですけれども、こういう話題がいろいろありますね。それがどういう事業の柱になったり活動になっていくのかという面では、予算を伴うものも出てきます。これは、継続的にこのセンターのあり方を考えていく上では、センターのサービスをどういうふうに展開していくかという面で残っていく問題ですけれども、次年度のどういう取り組みに結びつけていけるのかということは、決まった後くらいですね。決まりかかったくらいですか。1月の末くらいなら大体予算は決まっていますね。枠だけ決まっていますか。どういうレベルですか。

こういう話し合いを宇野委員から告発されないようにするためにはどうしたらいいのでしょうか。

僕も、宇野委員と同じような感想を志賀さんに言って、志賀さんがすごく困っていたのです。こういう漠然とした話し合いで見通しはどうなるのかと聞いていたのです。でも、今、ちゃんと見通しがついていましたので、どうにかなるのだなと思いましたがけれどもね。ただ、肝心の、これを事業化したり、企画ベースにのせていくということになると、今の話をどういう企画につなげていくか、今までのものを見直せば、使えるものとか、新しく起こさなければならないものとか、予算をつけるものとか、ちえりあと連携しなければいけないという問題とか、いろいろ出てくるのです。その整理を一度やった上で、今回はこういうことを話し合っ、来年はこういうことを検討しようとか、そういうものを次回に入れておかなければいけません。話っ放しではどうしようもないので、宿題になりますけれども、少し詰めたものをまた皆さんにお返しして、こういうふうにしたらどうだろうかということを考えたいと思います。

次回は1月の何日でしたか。

事務局(志賀) 1月24日を予定しています。

杉岡座長 皆さん、24日で問題ないですね。

では、きょう来られなかった西井委員の都合を確認しつつ、24日でよければ、24日ということできましょう。

それから、きょうの話し合いの取り扱いについて、事務局長から何かコメントはありませんか。この話し合いはどう生かされるのでしょうか。

事務局(大築館長) たいへんいろいろなお意見をいただきました。私も、個人的に学生時代ボランティア活動をやってたのですけれども、贅沢な悩みなのです。今は、札幌市内に、自分で選択できる施設がこれだけできました。私がボランティア活動をしているときは、社会福祉協議会の愛情銀行に登録して自分で活動するしかなかったのですが、今は、ボランティアあり、市民活動あり、ちえりあでも登録制でやっています。ですから、先ほどから出ている情報の収集や、相談機能をうまくまとめながら発信していく事かと思えます。皆さんからのたいへん貴重なアドバイスをいただいたと思っております。

ただ、この市民活動サポートセンターには四つの柱がありますので、我々も一生懸命悩みながら仕事をさせていただいています。特に、情報収集・相談以外にも、研修・学習の機能があり、交流活動の場も与えなければいけません。また、団体活動支援の機能もあります。そういう四つの柱をうたっておりますので、それをどうやってこなしていくか。

今日のお話にもありましたが、情報収集しながら、このセンターがどんなふうに関係していくか、あるいは、個人なり団体からの相談の部分はどこにくっつけていくか、そういうことが我々がやるべき仕事かなと思っています。そのために、皆さんの忌憚のないご意見が我々には非常に参考になりました。

我々は、4年間、この仕事をここでやらせていただくわけですが、これをだらだらやってもなかなか

うまくいかないと思っています。そのために、19年度は、情報なら情報をしっかり押さえて、それをうまく発信しながらいろいろの団体、市民が交流し、先ほど言いましたが、せっかく登録している団体の皆さんのお力をうまくかりながらやっていくと。そして、ここは四つの施設のお互いの理念を持っているのですが、これをそれぞれの施設の中でどういうふうに生かしていくか。また先ほどお話しがありましたように、1階のロビーをもっと自由に。すると今度は情報資料室という図書コーナー利用者からうるさいというご意見もあるものです。お互い相反するところがありますね。それと近くに代々木ゼミがありまして、オープンした当時は、情報資料室のすべてのコーナーは受験生が占領していて、本を読む場所もないというご意見がありました。そういう関係で、情報資料室の目的に資するよという程度整理したのです。整理すると、すいたように見えますので、今度は、少しは勉強する場所を与えてもいいのではないかとご意見が最近多く出ております。

そういうことで、我々も、周りの環境と時代の流れに沿いながら、考えていかなければならないことは確かだと思っております。

先ほどちえりあの話もありましたけれども、ちえりあも最初は、勉強する人が、入り口をあけると同時に、ケガをするくらいの勢いで走って場所とりをしていました。今使用しているコーナーは、本来はボランティアの人たちのためのコーナーなのです。でも、全部受験勉強のためにとられてしまって、それでも足りないものですから、親から、ほかに部屋があるのだからそこを開放すれという意見まで出ていました。それで、1階にある青少年センターのロビーはいいよと、昼間空いているときはいいよと。ただ、使用するときの約束事というか、必ず指導員(職員)が声をかけますよと。自分だけで占領して学習するのではなくて、せっかく隣で勉強するのなら、声をかけ合ったり、月に1回くらいは力を抜いて何か楽しいことをしないか、そんな仕掛けをして、一つのグループを作ったりしているのです。

ここでは、それができるかどうかわかりませんが、そういう活動してくれる人、またそういう人の力をかりながら、目的がなくてひとりぼっちで来た人も心の休らう、そんな場を提供出来ればと思っております。

そういう意味では、来年の事業のために、皆さんから貴重なご意見、ご提案をいただきましたので、それをたたき台にしなが、来年の事業に反映させていきたいと思っております。先ほど言いましたように、1月に次回協議会がありますので、それまでに事業の方向性を見せたいと思っております。またそれに対して修正をかけていただいて、19年度に向かっていきたいと思っております。

いずれにしても、四つの施設がありますので、お互いの委員会でそれぞれのモチベーションでいろいろな意見が出るのですが、市民活動サポートセンターが一番多くの方々が利用しています。もともと市民活動は2階だけで、1階と3階と4階は男女共同参画センターの専属施設だったのですが、4月から、4階に行っても市民活動の皆さんが使えるようになったとか、消費者センターの無料の施設を使用することが出来る、そういう仕組みが出来上がりました。これをさらにデータベースにして、これからどう発信していくかが我々の課題かなと思っています。これも、札幌市へ我々の方からも、皆さんの力強い意見を背にして働きかけていきたいと思っております。先ほどの2日前という話についても、我々の力でどれだけ長くできるかどうかわかりませんが、我々も1週間前がベターかなと思っています。ただ、1週間前にして貸し館の利用が少なくなれば、全体の施設を管理する上において多少の修繕費がそこから出てくるものですから、そんなことも今は考えているところでございます。

杉岡座長 それでは、ちょうど時間になりましたので、次回には、こういうような提案になるのではないかと柱立てを整理させていただき、皆さんに議事録をご確認いただくことになると思っておりますが、事業の柱になりそうなところに少し焦点を絞って議論をしつつ、こういう大きな議論については、必要なときに何回かやっていくと、大きな柱もだんだんでき上がってくるのかなと思っております。

事務局(志賀) 次は1月を予定していますが、それまでに、今いただいた意見や、札幌市との方向性などの話もしなければなりませんし、私どもの中でも、先ほど言われた予算的なこともあります。その辺は、事業計画をつくっていく間に、次年度はこんな形でつくっていききたいということもお見せしていきたいと思っております。次回協議会の24日までは、順次、こんな形でつくっていききたいということをメール等で配信させていただきたいと思っております。

次回の24日で決定ということではありませんので、その辺はよろしいでしょうか。

今回の意見を参考に、事業の担当者ほかの担当者も含めて詰めていきながら、来年度はこんな事業になるというところが見えてくるといいなと思っております。

宇野委員 今おっしゃったのは、次回に今後のタイムスケジュール案を事務局が出すということですか。

か。

事務局（志賀） はい。

宇野委員 この協議会がこのリズムでいきましょうという案を一度出してくださいということですか。

私はその方がいいと思います。それで、やれるかどうかとか、お金がなくても、もうちょっと議論して、これはお金なしでやろうというのはいかがでしょうか。

事務局（志賀） ただ、次年度にこれをすぐというよりも、継続的に考えていかなければならないところもあると思います。事業としてぼんとやる以外のものですね。

宇野委員 テーマを決めて議論するのもいいですが、先ほどあったように、前回をつなげていかないと、やっぱり断ち切れになっていくので、それはちょっともったいないと思います。ですから、一度、事務局からタイムスケジュールの案を出してもらった方がいいと思います。それで、なるべくそれに沿うように、時間のない中でできることをやっていくと。

それから、時間ということ思い出したのですが、一つお願いがあります。

こういう協議会のホームページの公開についてですが、びっちり書かれた議事録が精査されて出てくる前に、一度、キーワードでもいいから速報的なものを出すようなホームページの作り方をちょっと考えていただきたいと思います。

今、どこの協議会もそうなのですが、マイクを通して言ったとおりに原稿が起こされて、これでいいですかと言われるのですが、「だよな」とアイコンタクトで話しているものをただ文字づらにしたものが多いか悪いかに時間をかけて、ようやくそれがホームページに出るのではなくて、今、この協議会でこんな話をしているということ、タイムラグが生じないようにオープンにしていくような公開のあり方にしなければいけないと思います。

杉岡座長 それは、議事録ではなくて、ニュースですね。

宇野委員 ニュースほど格好よくなくていいのですが、皆さんはどうでしょうか。

井上委員 その発言がだれがしたのかということになると、こっちで個人的に発言したけれども、組織ではとか、僕もそうですが、いろいろな立場がある中でということもあると思います。そうではなくて、今はこういう話し合いをやっているということであれば、宇野委員がおっしゃるような形でいいと思います。

事務局（志賀） 前回、議事録のほかに概要というものを別に出しております。あの部分を先に回して載せるというイメージでしょうか。

宇野委員 ごめんなさい。私は見ていないです。

嶋委員 前回の議事録をチェックしてくださいという後のものは見ましたか。

宇野委員 チェックが終わって返した後ですね。私は見ていないです。

澤出委員 それは見ていません。直ったかどうかのチェックでしょう。

宇野委員 ただ、それは委員の責任だと思うのです。このマイクを通った発言の原稿を見て、これで間違いはないですかというのは、何だったら、もう一度テープを聞かせてください、趣旨はそういうことではなかったですくらいの責任が各委員にあると思います。しかし、それをやっていたらとても時間がかかるので、やはり市民に、今やっていることや、そもそもこの運営協議会があることをもっと知ってもらった方がいいと思います。それは、タイムラグがあるとなかなか伝わっていきません。自分の発言に関しては、責任を持ってチェックしたいですし、もちろん協力したいと思いますし、テープを聞くくらいの時間を自分でつくるなりして間違いがないようにしたいと思いますけれども、それとは別に、早く出した方がいいように思います。

杉岡座長 広報活動ですね。それは工夫していただくという要望ということをお願いしたいと思います。

宇野委員 もし皆さんに異論がなければですよ。（「いいと思います」と発言する者あり）

#### 4. 閉 会

杉岡座長 それでは、長時間にわたってご協力をいただきまして、ありがとうございました。

次回は来年の1月24日です。よろしく願いしたいと思います。

これで終わります。

以 上